

Cantabile

2010. March

Vol. 5

発行

山形県音楽教育連盟
山形県小中学校教育研究会音楽部会

発行日

平成22年 3月31日

特集

平成24年度 東北・山形県大会 置賜大会に向けて

「いっしょに音楽 もっと音楽 ずっと音楽」

～音楽の「いのち」を活かし、「まなび」と「かかわり」のある活動の中で～

◆テーマによせる願い

「いっしょに」

一人で楽しむ音楽もあるが、学校音楽は周りの友達や先生、その他の人々とかかわることにより一層楽しさに触れ、音楽の良さを共有することができると考える。また、声や音、思いや心を含わせ、共に創り上げる活動の中でより深い喜びを感じるようになる。仲間と共に協力して音楽を創り上げたり意見を交わしたりして多くのことを学び合い、より良い表現や鑑賞につなげていく力を育てたい。

「もっと」

現状に満足せず、常に子ども達がイメージを広げ、向上心を持ち生き生きと活動する意欲を育てる。もっと音楽の良さを追求する、もっと音楽的表現を高める、もっと音楽の多様さと深さに触れる、そして、もっと音楽を楽しむ等の思いや意図を持って、質の高さを求める子どもを育てたい。

「ずっと」

音楽活動を通して体験した楽しさや喜び、感動はさらなる活動を生み出す。音楽によって癒されたり勇気付けられたりしながら、自己実現や自己表現を図っていく素地を育てたい。また、音楽を通して苦労や感動を共有した仲間との豊かなつながりを大切に、生涯にわたって音楽を愛好していけるような子どもを育てたい。

◆サブテーマにおける授業像

「音楽のいのちを活かし」

音楽に込められた思いや表現の素晴らしさ、生命を感じ取ることが「音楽のいのち」に触れることと考える。教材の持つ良さを個性を活かし、目の前の子ども達の実態を踏まえた教材研究の上に立った単元構成や授業を仕組む。また、児童生徒一人一人に寄り添い、個々の持つ感性を引き出し、良さを認めながらさらに伸ばしていく姿勢を大切にしていく。

「まなび」

誰もが心惹かれる音楽には、楽曲そのものの魅力と演奏表現の魅力との両面がある。共通事項に示された基礎基本や技術の習得も大切にしながら、思いを語り良さを出し合って共に音楽を創り上げるような場を設定していく。また、自分達とは違う表現にも気付かせたり、本物に触れさせたりしながら音楽の幅を広げ、「まなび」を深めさせる。

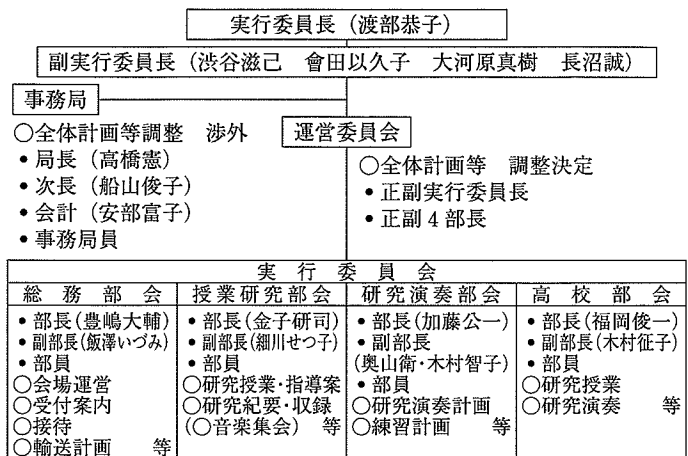


私達もかかわりながら研修を深めています

「かかわり」

わかる楽しさやでさる喜びを分かち合い、音楽活動によって生まれる感動を広げていきたい。それには、コミュニケーションを大切に、子どもといろいろな人々との「かかわり」、郷土や文化との「かかわり」を意識させていく。また、人は一人ではなく、たくさんの人とつながって生かされていることを感じながら、自己有用感を味わい、他人を思いやる心も育てる授業を心がける。

◆運営組織（平成二十一年度）



◆今後の予定

- 平成二十二年年度
 - ・県合唱指導者講習会（米沢担当） 六月
 - ・運営案（研究演奏・日程・全体講師・会場等）提案
- 平成二十三年年度
 - ・県合唱指導者講習会（西置担当） 六月
 - ・研究演奏練習開始
 - ・県研究協議会
 - ・置賜大会（ブレ大会）授業を中心
- 平成二十四年度
 - ・第六十回東北大会・第二十回山形県大会
 - ・置賜大会



本物に触れることが大切だと考えます

当日の授業では、門脇先生の「どんな声、歌にしたい？」という問いかけに「こんなふうに歌いたい」という強い思いを持って表現する子ども達の姿が見られました。学級目標の「ハーモニー」に重なり、日々の学級経営と音楽指導のつながりが伝わってくる授業でした。三部合唱の手立てとして階名唱を取り入れたり、リコーダーのや

・期 日 平成二十一年十一月二十六日(木)
・会 場 山形市江南公民館
・内 容
実践発表
☆山形市立第十小学校 細矢登志子教諭
『友達と音楽の楽しさを分かち合いながら一人一人の音楽性を高める指導をめざして』
・「やってみたいな」という課題提示の仕方、「やれそうだな」という見通しの持たせ方の工夫。
・音楽を聴き合い、認め合う場の設定、その中でより音楽的に豊かな表現を工夫
☆山形市立西郷第二小学校 吉田良子教諭
『リズムメロディづくりの工夫』
・自分がみんなで歌いたい曲を選ぶ。各自の書いたリズムや曲の良さをお互いに認め合ったり、曲を聴いて思い浮かんだ情景を言葉にして伝えたりする。
・グループで互いの良さを認め合ったり、教え合ったりする。お互いの音や声を聴き合い、認め合って自分の励みにする。

☆上越教育大学大学院学校教育研究科 講師 香賀我部琢氏

① 実践についてご指導

・意欲を持たせるための課題提示

・見通しを持たせてリズム創作の手順の工夫

・聴く視点、よさを見つける視点の共通化

・意欲を持たせるための課題提示

・見通しを持たせてリズム創作の手順の工夫

・聴く視点、よさを見つける視点の共通化

・意欲を持たせるための課題提示

・見通しを持たせてリズム創作の手順の工夫

・聴く視点、よさを見つける視点の共通化

・意欲を持たせるための課題提示

・見通しを持たせてリズム創作の手順の工夫

・聴く視点、よさを見つける視点の共通化

・意欲を持たせるための課題提示

・見通しを持たせてリズム創作の手順の工夫

・聴く視点、よさを見つける視点の共通化

・意欲を持たせるための課題提示

・見通しを持たせてリズム創作の手順の工夫

・聴く視点、よさを見つける視点の共通化

・意欲を持たせるための課題提示

・見通しを持たせてリズム創作の手順の工夫

・聴く視点、よさを見つける視点の共通化

・意欲を持たせるための課題提示

・見通しを持たせてリズム創作の手順の工夫

・聴く視点、よさを見つける視点の共通化

・意欲を持たせるための課題提示

・見通しを持たせてリズム創作の手順の工夫

・聴く視点、よさを見つける視点の共通化

・意欲を持たせるための課題提示

・見通しを持たせてリズム創作の手順の工夫

・聴く視点、よさを見つける視点の共通化

・意欲を持たせるための課題提示

・見通しを持たせてリズム創作の手順の工夫

・聴く視点、よさを見つける視点の共通化

・意欲を持たせるための課題提示

・見通しを持たせてリズム創作の手順の工夫

・聴く視点、よさを見つける視点の共通化

・意欲を持たせるための課題提示

・見通しを持たせてリズム創作の手順の工夫

・聴く視点、よさを見つける視点の共通化

・意欲を持たせるための課題提示

・見通しを持たせてリズム創作の手順の工夫

・聴く視点、よさを見つける視点の共通化

・意欲を持たせるための課題提示

・見通しを持たせてリズム創作の手順の工夫

・聴く視点、よさを見つける視点の共通化

・意欲を持たせるための課題提示

・見通しを持たせてリズム創作の手順の工夫

・聴く視点、よさを見つける視点の共通化

・意欲を持たせるための課題提示

・見通しを持たせてリズム創作の手順の工夫

・聴く視点、よさを見つける視点の共通化

・意欲を持たせるための課題提示

・見通しを持たせてリズム創作の手順の工夫

・聴く視点、よさを見つける視点の共通化

・意欲を持たせるための課題提示

・見通しを持たせてリズム創作の手順の工夫

・聴く視点、よさを見つける視点の共通化

・意欲を持たせるための課題提示

・見通しを持たせてリズム創作の手順の工夫



担任 樋坂(朝陽一小)

この他にも様々な研修会や広報発行を通して、音楽の輪を広げられた一年でした。

・期 日 平成二十一年十月十四日(水)

・会 場 大石田町立大石田小学校

・授業者 高橋貴子教諭

・題材名 曲想を感じ取るう。

「表したい気持ちに合う旋律をつくるう」という課題で、五年生の曲作りの授業を行いました。児童が作った短い詩に、リズム(四分の四拍子・四小節程度)メロディーを作り記譜する学習でした。児童は、自分の思いを表現できるよう、リズムや旋律を考え、鍵盤ハーモニカ等を用いながら曲作りを行いました。

事後研では、助言者の須藤真先生(県教育センター)より、児童の、音楽創りに悩みながらも工夫して考える姿がよかったことや、記譜の力や言葉にリズムを合わせる力がついていてとてもよかったというお話をいただきました。さらに、子どもは、遊びの天才、豊かな発想で音楽を創ることが出来る。段階を追って、必要な音楽的条件を踏まえて指導していくことが大切だというご指導もいただきました。

【中学校】

・会 場 大石田町立亀井田中学校

・授業者 伊藤礼子教諭

・題材名 美しく豊かな響きで合唱表現を工夫しよう。

「各パートの役割を考えて、歌い方を工夫しよう」という課題で、三年生の混声合唱

・期 日 平成二十一年十月十五日(木)

・会 場 飯豊町立飯豊中学校

・講師 県教育センター指導主事 須藤 真氏

日程

十三時四十五分 開会行事

十四時 授 業

十五時 講 話

十六時十五分 閉会行事

・内 容

(1) 示範授業 飯豊中学校第二学年

「混声合唱の響き」

・共通事項を意識した授業づくり

① 指導案から

・題材名 思いを込めて表現しよう

・教材名 混声三部合唱「あなたへ」

・題材の目標

歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫することが出来る。

・指導について

ア 表現を工夫する場合、歌うときの気持ちだけではなく、それを表現するために「共通事項」に示されているような音楽の要素を意識することが大切である。また、親しみやすくするために、音楽の要素を音楽レシビと呼ぶようにする。

イ それぞれの場面の違いを表現しやすいように、「力強く」の場面をもとにし、そのことの比較から「訴えて」と「決然」との歌い方を工夫させる。

ウ パートで意見交換しながら工夫させていくが、言葉のやり取りだけに

・期 日 平成二十一年十月十五日(木)

・会 場 飯豊町立飯豊中学校

・講師 県教育センター指導主事 須藤 真氏

日程

十三時四十五分 開会行事

十四時 授 業

十五時 講 話

十六時十五分 閉会行事

・内 容

(1) 示範授業 飯豊中学校第二学年

「混声合唱の響き」

・共通事項を意識した授業づくり

① 指導案から

・題材名 思いを込めて表現しよう

・教材名 混声三部合唱「あなたへ」

・題材の目標

歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫することが出来る。

・指導について

ア 表現を工夫する場合、歌うときの気持ちだけではなく、それを表現するために「共通事項」に示されているような音楽の要素を意識することが大切である。また、親しみやすくするために、音楽の要素を音楽レシビと呼ぶようにする。

イ それぞれの場面の違いを表現しやすいように、「力強く」の場面をもとにし、そのことの比較から「訴えて」と「決然」との歌い方を工夫させる。

ウ パートで意見交換しながら工夫させていくが、言葉のやり取りだけに

・期 日 平成二十一年十月十五日(木)

・会 場 飯豊町立飯豊中学校

・講師 県教育センター指導主事 須藤 真氏

日程

十三時四十五分 開会行事

十四時 授 業

十五時 講 話

十六時十五分 閉会行事

・内 容

・期 日 平成二十一年十月十四日(水)

・会 場 大石田町立大石田小学校

・授業者 高橋貴子教諭

・題材名 曲想を感じ取るう。

「表したい気持ちに合う旋律をつくるう」という課題で、五年生の曲作りの授業を行いました。児童が作った短い詩に、リズム(四分の四拍子・四小節程度)メロディーを作り記譜する学習でした。児童は、自分の思いを表現できるよう、リズムや旋律を考え、鍵盤ハーモニカ等を用いながら曲作りを行いました。

事後研では、助言者の須藤真先生(県教育センター)より、児童の、音楽創りに悩みながらも工夫して考える姿がよかったことや、記譜の力や言葉にリズムを合わせる力がついていてとてもよかったというお話をいただきました。さらに、子どもは、遊びの天才、豊かな発想で音楽を創ることが出来る。段階を追って、必要な音楽的条件を踏まえて指導していくことが大切だというご指導もいただきました。

【中学校】

・会 場 大石田町立亀井田中学校

・授業者 伊藤礼子教諭

・題材名 美しく豊かな響きで合唱表現を工夫しよう。

「各パートの役割を考えて、歌い方を工夫しよう」という課題で、三年生の混声合唱

・期 日 平成二十一年十月十五日(木)

・会 場 飯豊町立飯豊中学校

・講師 県教育センター指導主事 須藤 真氏

日程

十三時四十五分 開会行事

十四時 授 業

十五時 講 話

十六時十五分 閉会行事

・内 容

(1) 示範授業 飯豊中学校第二学年

「混声合唱の響き」

・共通事項を意識した授業づくり

① 指導案から

・題材名 思いを込めて表現しよう

・教材名 混声三部合唱「あなたへ」

・題材の目標

歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫することが出来る。

・指導について

ア 表現を工夫する場合、歌うときの気持ちだけではなく、それを表現するために「共通事項」に示されているような音楽の要素を意識することが大切である。また、親しみやすくするために、音楽の要素を音楽レシビと呼ぶようにする。

イ それぞれの場面の違いを表現しやすいように、「力強く」の場面をもとにし、そのことの比較から「訴えて」と「決然」との歌い方を工夫させる。

ウ パートで意見交換しながら工夫させていくが、言葉のやり取りだけに

・期 日 平成二十一年十月十五日(木)

・会 場 飯豊町立飯豊中学校

・講師 県教育センター指導主事 須藤 真氏

日程

十三時四十五分 開会行事

十四時 授 業

十五時 講 話

十六時十五分 閉会行事

・内 容

(1) 示範授業 飯豊中学校第二学年

「混声合唱の響き」

・共通事項を意識した授業づくり

① 指導案から

・題材名 思いを込めて表現しよう

・教材名 混声三部合唱「あなたへ」

・題材の目標

歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫することが出来る。

・指導について

ア 表現を工夫する場合、歌うときの気持ちだけではなく、それを表現するために「共通事項」に示されているような音楽の要素を意識することが大切である。また、親しみやすくするために、音楽の要素を音楽レシビと呼ぶようにする。

イ それぞれの場面の違いを表現しやすいように、「力強く」の場面をもとにし、そのことの比較から「訴えて」と「決然」との歌い方を工夫させる。

ウ パートで意見交換しながら工夫させていくが、言葉のやり取りだけに

・期 日 平成二十一年十月十五日(木)

・会 場 飯豊町立飯豊中学校

・講師 県教育センター指導主事 須藤 真氏

日程

十三時四十五分 開会行事

十四時 授 業

十五時 講 話

十六時十五分 閉会行事

・内 容

(1) 示範授業 飯豊中学校第二学年

「混声合唱の響き」

・共通事項を意識した授業づくり

① 指導案から

・題材名 思いを込めて表現しよう

・教材名 混声三部合唱「あなたへ」

・題材の目標



担任 船山(神町小)

・期 日 平成二十一年十月十五日(木)

・会 場 飯豊町立飯豊中学校

・講師 県教育センター指導主事 須藤 真氏

日程

十三時四十五分 開会行事

十四時 授 業

十五時 講 話

十六時十五分 閉会行事

・内 容

(1) 示範授業 飯豊中学校第二学年

「混声合唱の響き」

・共通事項を意識した授業づくり

① 指導案から

・題材名 思いを込めて表現しよう

・教材名 混声三部合唱「あなたへ」

・題材の目標

歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫することが出来る。

・指導について

ア 表現を工夫する場合、歌うときの気持ちだけではなく、それを表現するために「共通事項」に示されているような音楽の要素を意識することが大切である。また、親しみやすくするために、音楽の要素を音楽レシビと呼ぶようにする。

イ それぞれの場面の違いを表現しやすいように、「力強く」の場面をもとにし、そのことの比較から「訴えて」と「決然」との歌い方を工夫させる。

ウ パートで意見交換しながら工夫させていくが、言葉のやり取りだけに

・期 日 平成二十一年十月十五日(木)

・会 場 飯豊町立飯豊中学校

・講師 県教育センター指導主事 須藤 真氏

日程

十三時四十五分 開会行事

十四時 授 業

十五時 講 話

十六時十五分 閉会行事

・内 容

(1) 示範授業 飯豊中学校第二学年

「混声合唱の響き」

・共通事項を意識した授業づくり

① 指導案から

・題材名 思いを込めて表現しよう

・教材名 混声三部合唱「あなたへ」

・題材の目標

歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫することが出来る。

・指導について

ア 表現を工夫する場合、歌うときの気持ちだけではなく、それを表現するために「共通事項」に示されているような音楽の要素を意識することが大切である。また、親しみやすくするために、音楽の要素を音楽レシビと呼ぶようにする。

イ それぞれの場面の違いを表現しやすいように、「力強く」の場面をもとにし、そのことの比較から「訴えて」と「決然」との歌い方を工夫させる。

ウ パートで意見交換しながら工夫させていくが、言葉のやり取りだけに

・期 日 平成二十一年十月十五日(木)

・会 場 飯豊町立飯豊中学校

・講師 県教育センター指導主事 須藤 真氏

日程

十三時四十五分 開会行事

十四時 授 業

十五時 講 話

十六時十五分 閉会行事

・内 容

(1) 示範授業 飯豊中学校第二学年

「混声合唱の響き」

・共通事項を意識した授業づくり

① 指導案から

・題材名 思いを込めて表現しよう

・教材名 混声三部合唱「あなたへ」

・題材の目標



最北地区

今年度は、北村山地区で最北地区音楽教育研究協議会の授業研究会を行いました。

・期 日 平成二十一年十月十四日(水)

・会 場 大石田町立大石田小学校

・授業者 高橋貴子教諭

・題材名 曲想を感じ取るう

高等学校



県高等学校教育研究会芸術部会音楽専門部研究大会が六月十八、十九日の二日間、にわたり、村山地区において行われた。二日間で全県下より四十七名の参加者があった。

研究授業では、県立山形北高等学校の押野明子教諭が、同校普通科一学年による音楽Iの授業「女声合唱の響きを味わおう」を公開した。七月に行われる校内合唱コンクールの練習も兼ねているため、授業開始前から、生徒たちは自主的に練習を行っていた。授業ではメンデルスゾーン作曲「緑の森よ」を、選択者二十四名が八名ずつに分かれ、どのような表現をしたいか考えながら、グループ練習を行った。一人一人の意識が高く、各自で出した意見がグループで取り入れながらの積極的なものであった。レベルの高い練習内容とハーモニに全員一同、大変感心させられた授業であった。

その後、開催地の村山地区会員によるハンドベルの研究演奏が行われた。宗教音楽から現代アニメソングまで、多彩な表現力に魅了された。研究演奏の後半には、他地区の会員も演奏に加わり、なかなか触れることのできないハンドベルに触れさせてもらった。使い方を聞いたとはいえ、練習なし、一発勝負の本番であったが、そこは音楽の先生方、初めてとは思えないアンサンブルを奏でた。

その後、東京藝術大学教授の佐野靖先生より「新学習指導要領の改訂について」という演題で、講演会が行われた。大切なこととわかってはいるが、学校現場においては、忙しさを理由に勉強不足になる指導要領について、小学校・中学

校からの学習の連続性や発展性など、今後の視点やポイントについて講演をいただいた。

翌十九日は会場を黒沢温泉「悠湯の郷ゆさ」に移し、県立酒田東高等学校の関矢順講師による研究発表「地域の音楽文化の向上を目指して〜平成二十年度山形新聞『日曜随想』を執筆して〜」が行われた。市民オペラの活動、世界を代表する音楽家小澤征爾やリヒテル、市原多朗の地元での演奏会、映画「おくりびと」での第九演奏や撮影秘話など、生涯学習として酒田の音楽活動を支えている関矢先生の実践報告が行われた。

その後、音楽専門部総会が行われ、最後に「懐かしの我がケンタッキーの家」を全員合唱し、大成功のうちに研究大会は終了した。

担当 笹原（鶴岡中央高校）



器楽指導・アンサンブル講習会

「鍵盤ハーモニカ指導者講習会」としてスタートした本講習会も今年度で三十三回を数え、八月三〜四日に県内四会場で開催されました。そのときのニーズに合わせて、リコーダーや太鼓・箏・三味線・篠笛など和楽器についての研修も深めてきました。和楽器への取り組みも終えたところで、講習会の原点に戻り、楽器の基本的な指導や子ども達が楽しさを実感できる合奏指導を主な講習内容に、名称も「小学校器楽指導・アンサンブル講習会」として、リニューアルし三年目を迎えたところです。

今年度は、「音楽を感じて、いっしょにアンサンブルを楽しもう」というテーマで講習会を開催しました。

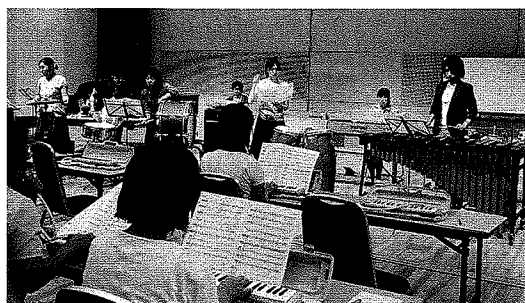
各地区とも現職の先生が講師を務め、鍵盤ハーモニカやリコーダーの器楽指導について研修しました。はじめに、リズム遊びや簡単な身体表現などを参加者みんなで楽しみ、和やかな雰囲気の中、楽しく講習会がスタートしました。普段の授業でも子ども達と一緒にできる活動で、それだけで音楽の学習が楽しく始められそうです。

鍵盤ハーモニカの基本的な奏法や合奏での活用、リコーダーの導入指導について、授業で役立つアイデア、苦手な子どもにも分かりやすい教材や言葉がけなど具体的に丁寧な講師の先生の話に受講の先生方も熱心に耳を傾けていました。

また、打楽器の講習では、専門講師のユーモアをまじえながらの指導で楽器の正しい持ち方や奏法を学ぶことができました。様々な楽器に触れることができ、有意義

な実技講習でした。

午後の合奏講習では、一昨年の「千の風になつて」や昨年の「崖の上のポニョ」など要望のあつた曲を教材としてアンサンブルに取り組み、好評を得てきました。今年度は、合唱曲としてよく知られている「Believe」のアンサンブルを参加者みんなで楽しみ、ぜひ全校で取り組みたいという声が寄せられました。



担当 井上（南沼原小）

あとかき

試行錯誤しながら始めた会報も第五号を迎えます。「カンタービレ」の名前で発行後、「のだめカンタービレ」というドラマが始まり、今は映画になっています。原作は漫画ですが、登場する曲やその解釈は本格的で、楽しい音楽の時間を過ごせる物語です。全国区になった「のだめカンタービレ」に負けないように、これからも充実した紙面を創っていきたいと思います。来年は東北大会に向け、より具体的な動きが始まります。県全体で盛り上げるためにも、会報でもできる限り伝えていきます。

会報担当

色部（滝山小）
武山（山南小）
小島（山八中）